

金賞

すごいぞ！浄化センター

塩柄 諒平

福岡市立西花畑小学校

「広いなー。なぜこんなに広いんだろう。」初めて入った浄化センターのしき地の広さに、ぼくはおどろきました。

浄化センターのしき地にはいろいろなしせつがありました。その中でもぼくがびっくりしたのは、たくさんタンクがある建物でした。大量にならんだタンクを見て、なぜこんなにタンクが必要なのだろうかとぎ間に思いました。そこで調べて計算してみました。

福岡市では、一日に約五十七万六千リットルものよごれた水が出ています。そのよごれた水を福岡市内の七つのしせつで分けて処理しています。そうすると、一つのしせつで八万二千二百八十五リットルの水を処理することになります。それだけたくさん水を処理するためには、これくらい多くのタンクが必要なのだろうと思いました。

ぼくは浄化センターで、実際によごれた水がきれいになる様子を観察しました。最初は臭くきたなかつた水が、少しずつ臭いが弱くなつていき、だんだんと水の色もとう明に変わっていききました。

浄化センターで、ぼくが一番すごいなと思ったのは、処理の仕方です。浄化センターでは、5つの過程を経て水がきれいにされています。沈砂池、最初沈殿池、生物反応槽、最終沈殿池、消毒槽。そして全部の過程を通るのに合計で十三時間三十一分もの時間がかかります。ぼくは、よごれた水をきれいにするためには、こんなに時間を重

ねて、時間をかける必要があつて、本当に大変だと思いました。

そしてぼくは、もし水がなかったり、下水道がなかったり、浄化センターがなかったりしたらどうなるだろう、と考えました。水がなかったら、トイレも困るし、お風呂にも入れず、よごれたまま過ぎないといけなくなり、身の回りがきたなくなってしまうと思います。また水があつても下水道がなかったら、よごれた水を流すことができずに、町中がきたなくなってしまうと思います。そして、下水道があつても浄化センターがなかったら、よごれた水をきれいにすることができず、川や海などがきたなくなつて、生き物が住むかんきょうが悪くなつてしまうと思います。こうしたことから、今のようにならなくて整っていないかつての昔や、災害で水に困っている人たちは本当に大変だと改めて思いました。そして、もっと水を大切にしくちや、と思いました。

これからぼくは、水を出しすぎないように気をつけたり、排水口によごれを流しすぎないように、今まで以上に気をつけていきたいです。日本は水がきれいな国だと思います。だからそれを大事にして、しよう来に向けて、守り続けていきたいと思っています。